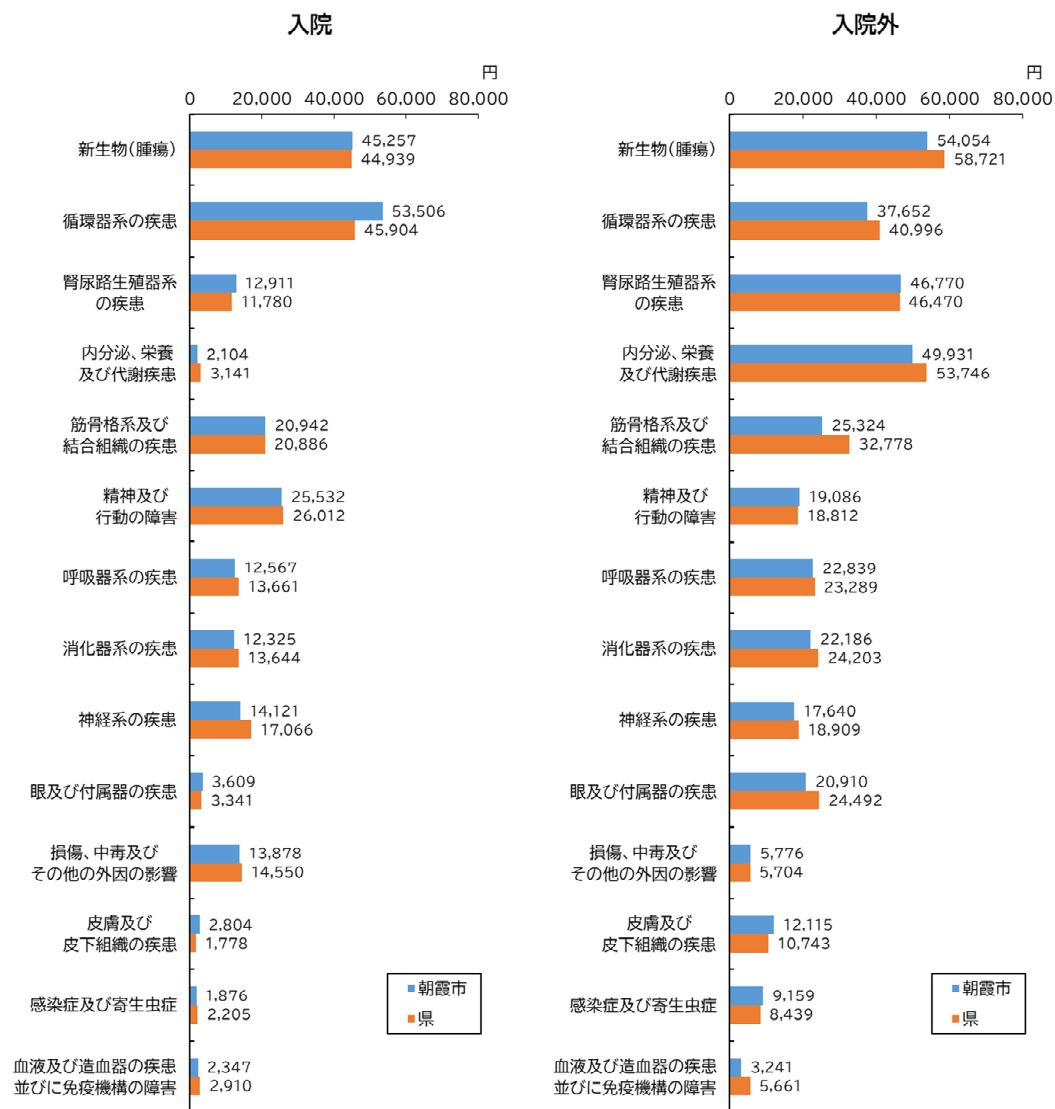


## (2) 疾病大分類別医療費

令和4(2022)年度の国民健康保険医療費を疾病大分類別に見ると、被保険者1人当たり医療費は、入院では循環器系の疾患と新生物(腫瘍)が高くなっており、入院外は新生物(腫瘍)と内分泌、栄養及び代謝疾患が高くなっています。医療費額及び対象者人数でも循環器系の疾患と新生物(腫瘍)は高い割合となっています。

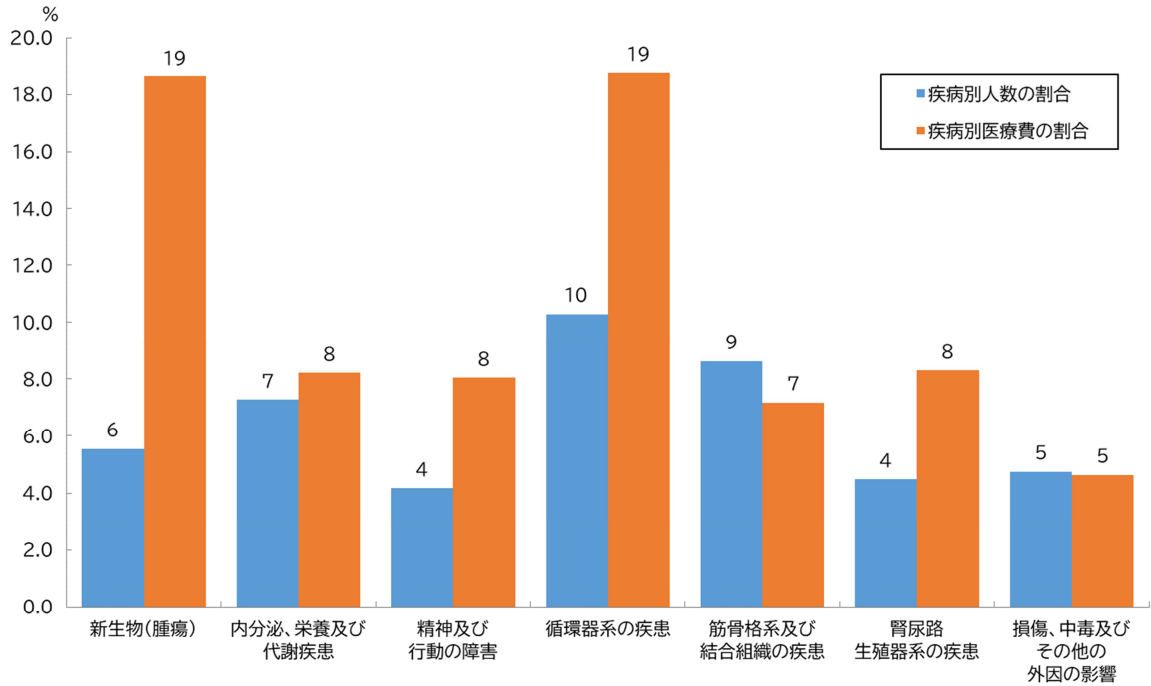
疾病大分類別医療費の割合を見ると、令和4(2022)年度は平成28(2016)年度と比べて循環器系の疾患や新生物(腫瘍)、内分泌、栄養及び代謝疾患、筋骨格系及び結合組織の疾患がわずかに増加しており、腎尿路生殖器系の割合は2.2%減少しています。

入院・入院外別の疾病大分類別被保険者1人当たり医療費



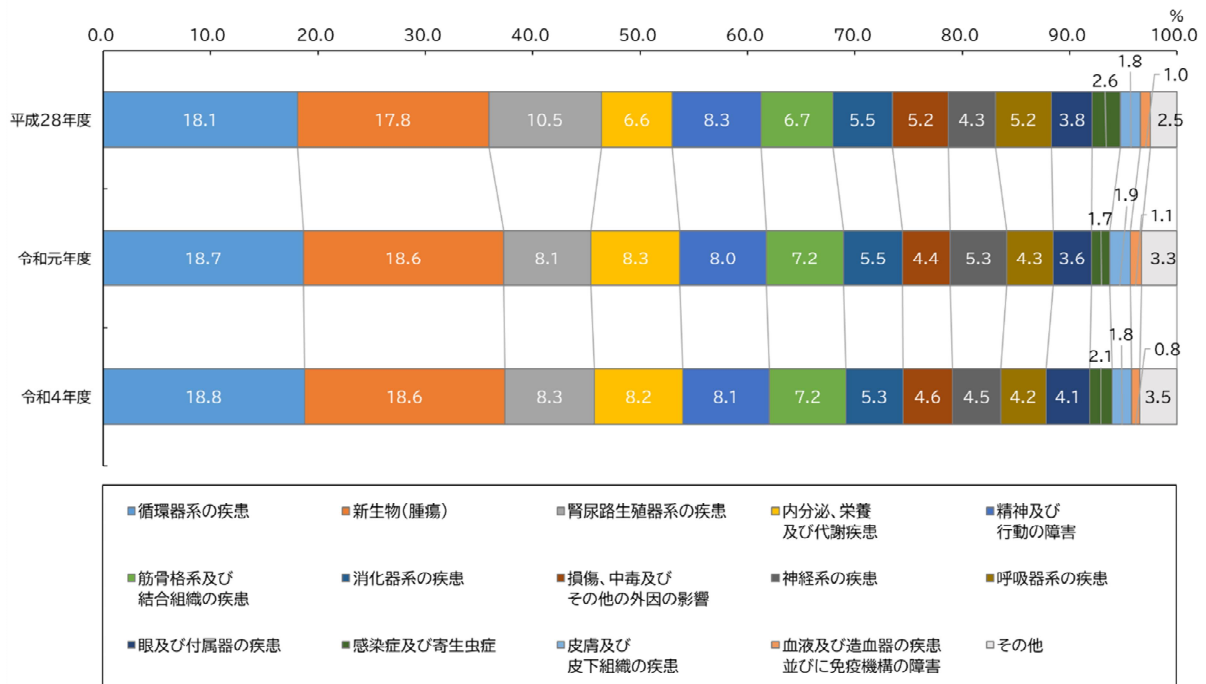
資料：KDB 疾病別医療費分析(令和4年度)

### 主要疾病別構成率



資料：朝霞市国民健康保険の医療費の動向(国保連合会)

### 疾病大分類別医療費の割合



資料：朝霞市国民健康保険の医療費の動向(国保連合会)

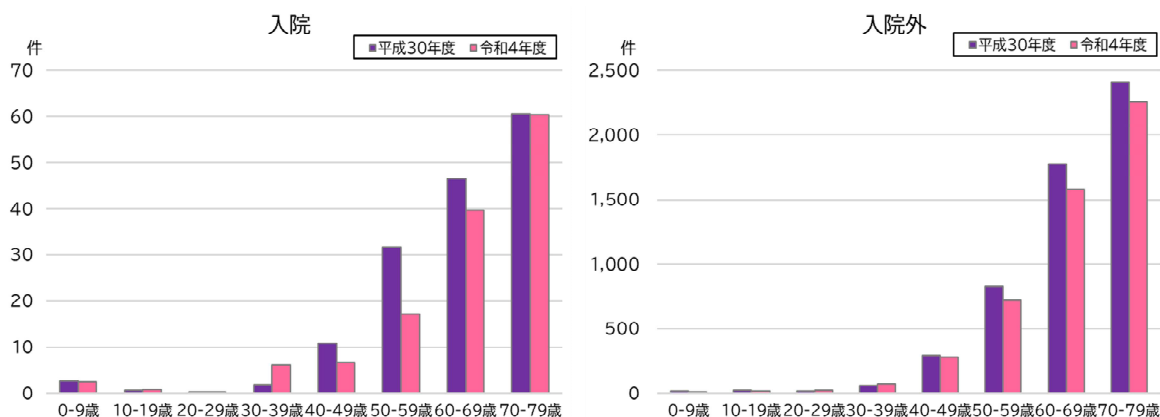
### (3) 循環器系疾患の医療費

循環器系の疾患の医療費を入院と入院外に分け、平成 30(2018)年度と令和 4(2022)年度のレセプト件数を比較すると、入院では 30 歳代は令和 4(2022)年度のレセプト件数が平成 30(2018)年度より増えていますが、40 歳以上の方では平成 30(2018)年度より件数が減っています。

また、入院外では 50 歳以上のレセプト件数が平成 30(2018)年度より減っています。

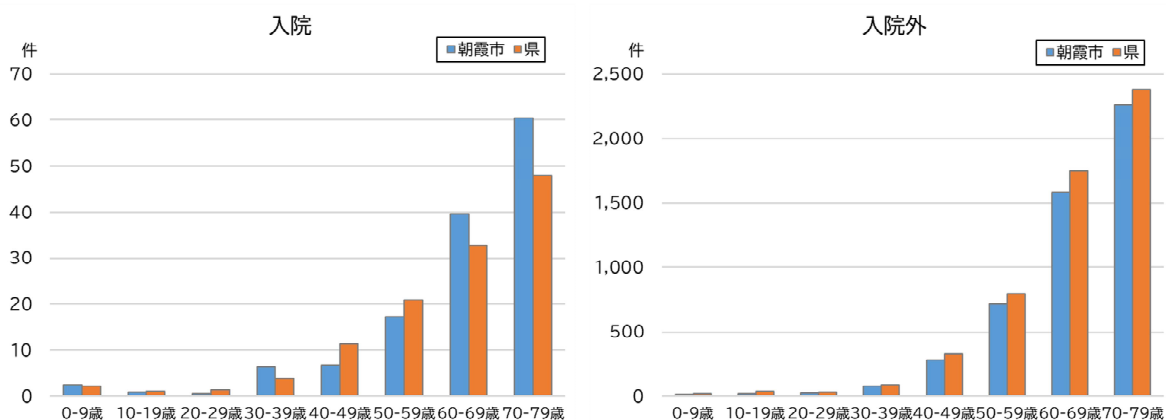
令和 4(2022)年度の被保険者千人当たりのレセプト件数を県と比較すると、入院では 30 歳代と 60 歳以上で県よりも件数が多くなっていますが、入院外では、40 歳以上のレセプト件数は県よりも低い状況となっています。

本市の入院・入院外別循環器系疾患の年齢別レセプト件数(被保険者千人当たり)



資料：疾病大分類別医療費分析(平成 30 年度、令和 4 年度)

本市と県の入院・入院外別循環器系疾患の年齢別レセプト件数(被保険者千人当たり)



資料：疾病大分類別医療費分析(令和 4 年度)

#### (4)生活習慣病の医療費

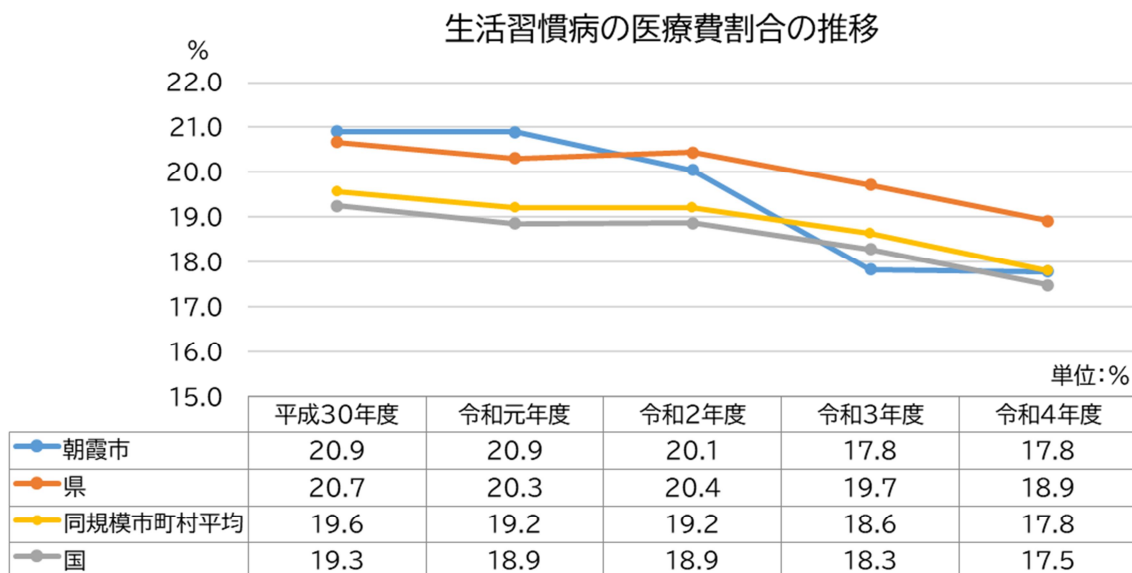
生活習慣病の医療費を、以下のように定義します。

- ・基礎疾患  
高血圧症、糖尿病、脂質異常症
- ・重症化して発症する疾患  
虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)、脳血管疾患(脳梗塞、脳内出血)、慢性腎臓病(人工透析あり・なし)

上記、疾患の医療費を生活習慣病医療費として、医科及び歯科医療費の合計に占める割合を比較したところ、本市は平成30(2018)年度から令和元(2019)年度にかけては国、県及び同規模市町村平均よりも高い割合となっておりますが、その後は減少傾向となり県よりも低くなっています。

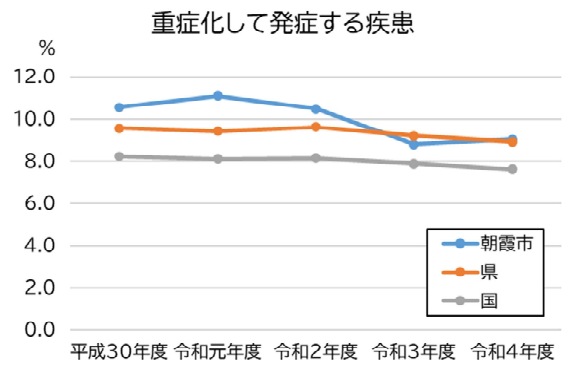
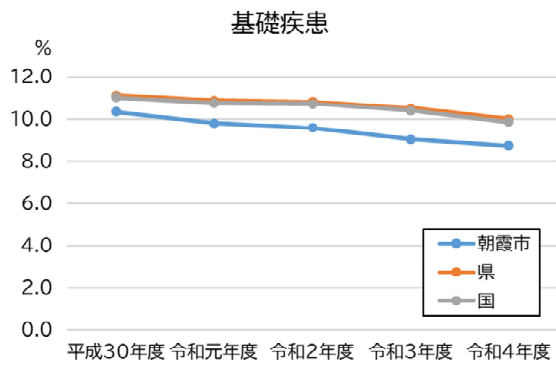
基礎疾患(高血圧症、糖尿病、脂質異常症)医療費の割合は、国や県と比べて低い水準で推移しており、令和4(2022)年度にかけて減少しています。

また、重症化して発症する疾患(虚血性心疾患、脳血管疾患、慢性腎臓病)の医療費割合は、平成30(2018)年度から令和2(2020)年度まで国や県よりも高くなっていますが、令和3(2021)年度以降は県と同水準となっております。



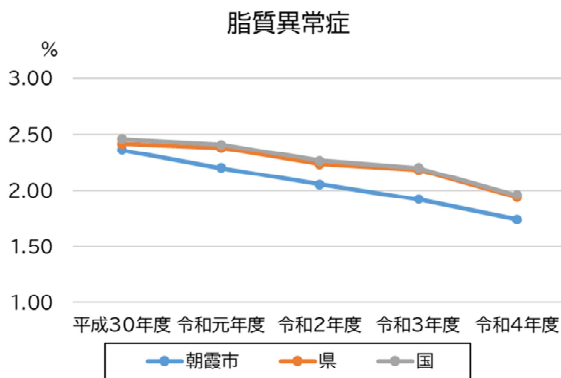
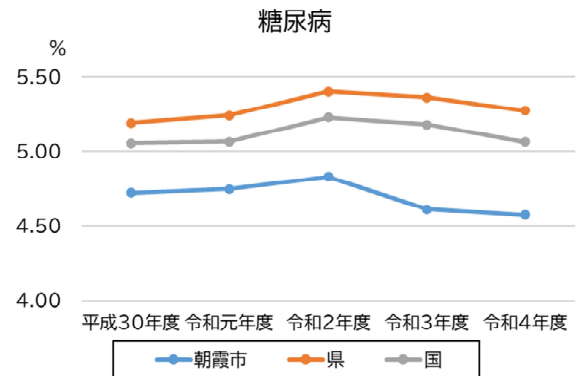
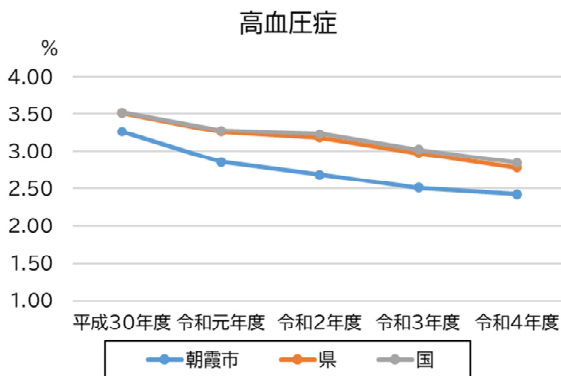
資料：KDB 地域の全体像の把握

## 基礎疾患・重症化して発症する疾患の医療費割合



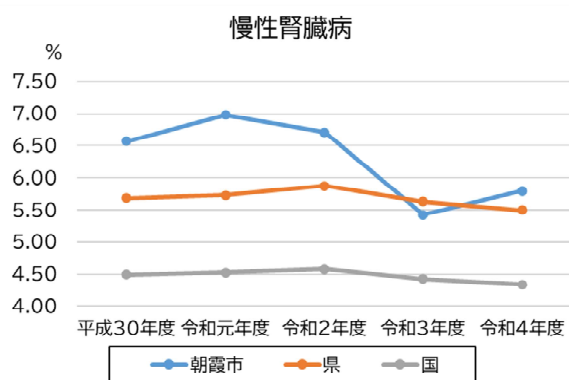
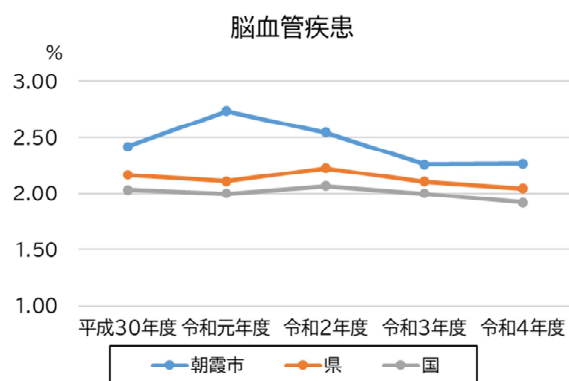
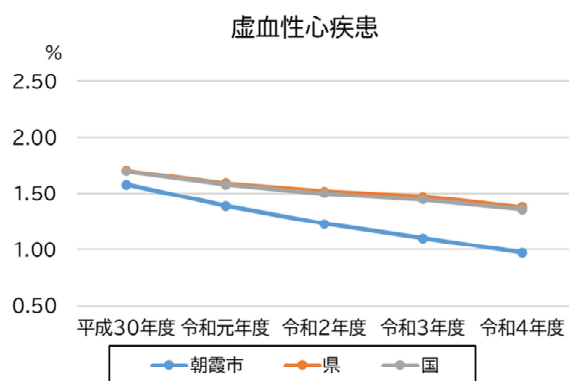
資料：KDB 地域の全体像の把握

## 基礎疾患の詳細な医療費割合



資料：KDB 地域の全体像の把握

## 重症化して発症する疾患の詳細な医療費割合



資料：KDB 地域の全体像の把握

## (5) 高額医療費と長期入院

平成 30(2018)年度から令和4(2022)年度の 80 万円以上のレセプト件数は増加傾向にあり、疾患別に見るとがんのレセプト件数が増加しています。

6か月以上の長期入院レセプト件数は、入院レセプト件数の約 2 割を占めており、精神疾患が半数近くを占めています。虚血性心疾患に伴う長期入院レセプト件数は年々増加しており、脳血管疾患は 200 件程度で横ばいです。

### 80万円以上のレセプト件数の推移

	総レセプト件数	80万円以上レセプト		疾患別内訳件数(件)			
		件数(件)	割合(%)	脳血管疾患	虚血性心疾患	がん	その他
平成30年度	195,734	1,171	0.6	91	56	363	661
令和元年度	189,453	1,267	0.7	88	53	415	711
令和2年度	169,833	1,263	0.7	83	41	406	733
令和3年度	182,531	1,380	0.8	94	34	483	769
令和4年度	178,739	1,361	0.8	87	31	423	820

資料：KDB 様式 1-1 基準額以上となったレセプト一覧

### 6か月以上入院レセプト件数の推移

	入院レセプト件数	6か月以上入院レセプト		疾患別内訳件数(件)			
		件数(件)	割合(%)	精神疾患	脳血管疾患	虚血性心疾患	その他
平成30年度	4,870	1,004	20.6	500	232	13	259
令和元年度	4,770	926	19.4	420	221	27	258
令和2年度	4,180	823	19.7	372	183	34	234
令和3年度	4,403	916	20.8	415	199	52	250
令和4年度	4,231	894	21.1	437	210	79	168

資料：KDB 様式2-1 6か月以上入院しているレセプト一覧

## (6)人工透析の医療費

人工透析の医療費は増減を繰り返し、令和4(2022)年度は約4億3,523万円になっています。慢性腎臓病の医療費割合を見ると、ほぼ国や県、同規模市町村平均を上回っています。平成30(2018)年度から令和4(2022)年度の人工透析患者は120人前後で推移し、男性が約6割を占めます。

また、65歳から74歳までの方は、人工透析を含む一定の障害を持つ場合、本人の申請により後期高齢者医療制度に加入する方もいるため、後期高齢者医療制度で人工透析を受けている方についても確認しています。

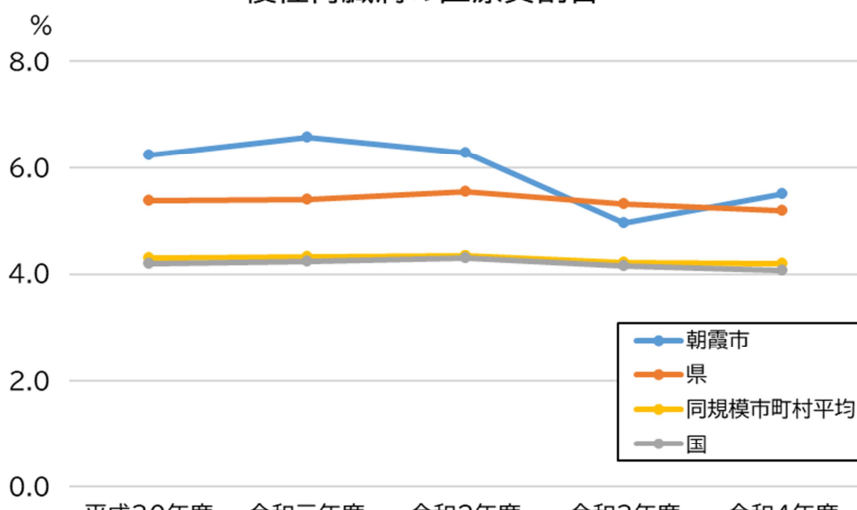
65歳から74歳までの方で人工透析を受けている方の推移を見ると、国民健康保険では約80人で、後期高齢者医療制度では約15人となっています。

疾患の重なりを見ると、男女ともに高血圧症の割合が高く、おおよそ8割を占めます。次いで糖尿病の割合が高く、男性は女性の割合よりも高いです。虚血性心疾患や脳血管疾患など、重症化した疾患を併せ持つ方が2割から3割を占めています。

慢性腎臓病(人工透析あり)の医療費の推移

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
慢性腎臓病 (人工透析あり)	医療費(円)	484,518,230	523,787,170	471,374,350	400,772,330	435,229,220
	総医療費に 占める割合(%)	6.25	6.58	6.30	4.97	5.52

慢性腎臓病の医療費割合



資料：KDB 地域の全体像の把握

単位:透析患者

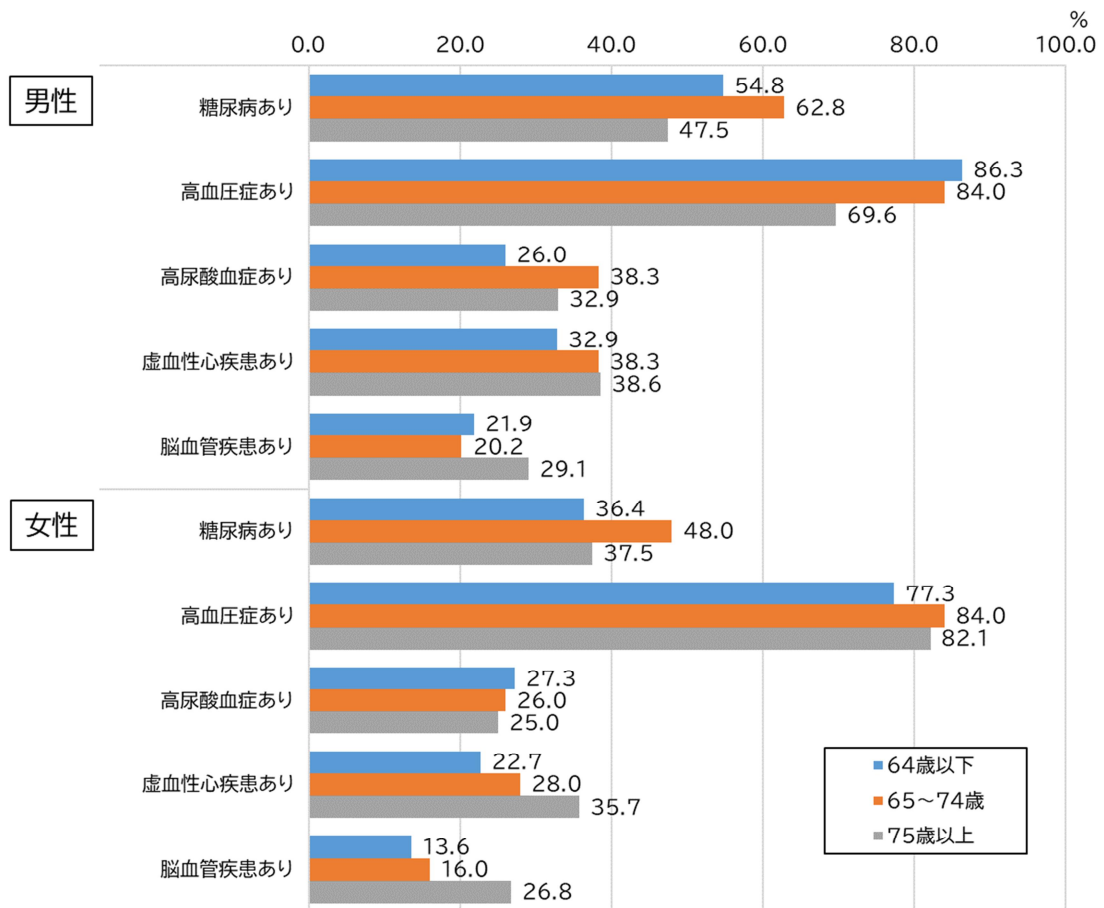
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
国民健康保険被保険者	男性	85	90	90	81	89
	女性	38	31	35	36	39
	合計	123	125	126	114	128
うち65歳以上~75歳未満	男性	52	53	52	53	55
	女性	28	27	29	26	32
	合計	80	80	81	79	87
	男性	78	81	82	89	83



※1は国民健康保険被保険者の新規導入患者数

資料：KDB 様式 2-2 人工透析患者一覧表、朝霞市国民健康保険事業統計

男女別の疾患别人工透析患者数の割合



資料：様式 2-2 人工透析患者一覧表

(7) 重複・頻回受診者及び重複・多剤投与者の状況

医療の重複・頻回受診者等に対し、適切な療養指導を行い疾病の回復や精神的な不安の軽減等に努め、対象者のQOL向上を図ること及び適正受診の行動変容を促すことを目的に平成26(2014)年度から実施しています。平成30(2018)年度より重複投薬者への対象を、令和2(2020)年度からは多剤投与者も対象としています。

64歳以下の重複・頻回受診及び重複・多剤投与の状況

単位:人

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
重複受診者	2	0	1	1	0	0	0
頻回受診者	2	3	0	0	0	0	0
重複投薬者			2	0	0	3	4
多剤投与者					1	1	0
複数該当者	1	0	1	0	0	1	0
合計	3	3	2	1	1	3	4

資料: 朝霞市国民健康保険事業統計

65歳～74歳の重複・頻回受診及び重複・多剤投与の状況

単位:人

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
重複受診者	1	1	2	1	2	0	1
頻回受診者	1	7	1	0	0	0	0
重複投薬者			0	0	0	0	0
多剤投与者					3	0	0
複数該当者	1	1	0	0	2	0	0
合計	1	7	3	1	3	0	1

資料: 朝霞市国民健康保険事業統計

## (8) 後発医薬品(ジェネリック医薬品)の利用促進

後発医薬品(ジェネリック医薬品)とは、新薬(先発医薬品)の特許期間が過ぎた後に新薬と同じ有効成分で製造された薬であり、開発費を抑えられることで、安価に作ることができるため、被保険者の負担軽減と医療費適正化に効果が期待できます。

後発医薬品の利用促進は、被保険者に対して後発医薬品の希望シールが付いているリーフレットを送付するほか、「国民健康保険の案内冊子」などにより周知しています。

後発医薬品の差額通知は、①生活習慣病(高血圧、糖尿病、脂質異常症)に関する薬剤を服薬している②後発医薬品に変更した場合に生じる差額を通知するものとして、平成 25(2013)年度から実施しています。

後発医薬品の数量シェア率は年々増加しており、令和 3(2021)年度から目標の 80%を超えています。県内市町村平均は下回っています。

### 後発医薬品差額通知の推移

年度	通知件数 (件)	切替人数 (人)	切替率 (%)	6か月分の効果額 (円)	数量シェア率(%)	
					朝霞市	県内市町村 平均
平成28年度	536	50	9.2	514,314	67.8	68.7
平成29年度	1,058	392	36.8	3,515,665	70.3	72.0
平成30年度	720	119	16.6	1,102,000	74.4	77.0
令和元年度	578	62	10.7	557,795	77.4	77.5
令和2年度	494	72	14.5	811,529	79.5	79.8
令和3年度	440	44	10.0	446,769	80.2	80.3
令和4年度	297	51	17.2	622,371	80.9	81.3

資料：朝霞市国民健康保険事業統計

### 3 特定健康診査・特定保健指導の状況

#### (1) 特定健康診査受診率の推移

特定健康診査の受診率は、令和2(2020)年度に新型コロナウイルス感染症の感染拡大により受診率が低下しましたが、令和3(2021)年度以降、回復しつつあります。40歳代と50歳代の受診率は、他の年代と比べ低く、女性よりも男性の受診率が低い状態となっています。

平成28(2016)年度と令和4(2022)年度の法定報告値から、5年後の健診受診率を確認すると、令和4(2022)年度では、50歳から54歳までの男性、45歳から49歳までの女性及び70歳から74歳までの女性は受診率の伸びが小さくなっています。

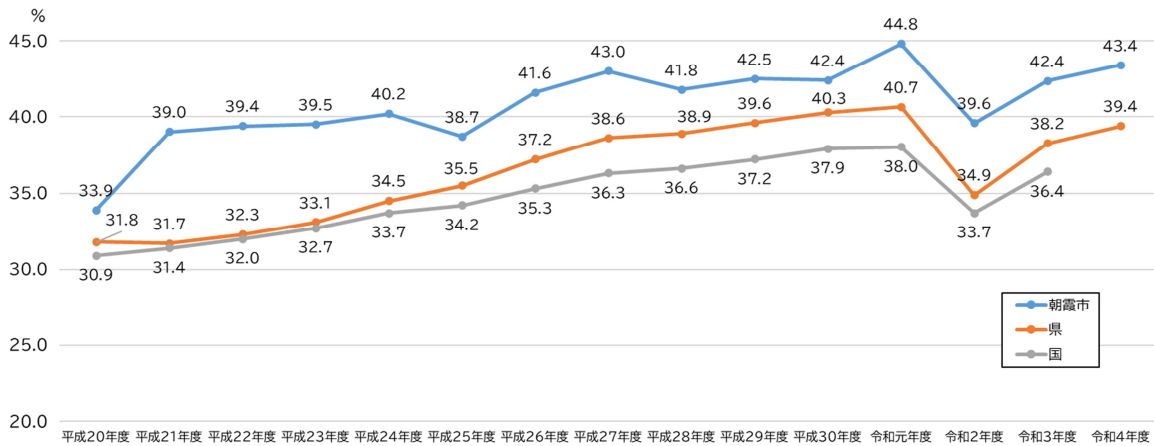
特定健康診査を受けない理由を特定健康診査のアンケート結果から見ると、受診中であると回答する方の割合が高いため、70歳から74歳までの女性の受診率が伸びていない主な理由と推測されます。40歳代の男性は就労している割合が高いと推測されるため、他で健康診査を受けている場合はデータを提供いただくことで保健事業につなげることができると考えられます。

#### 特定健康診査受診率の推移

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
朝霞市	対象者数(人)	16,755	16,025	15,524	15,520	15,163	14,332
	受診者数(人)	7,118	6,795	6,958	6,144	6,422	6,224
	受診率(%)	42.5	42.4	44.8	39.6	42.4	43.4
	目標受診率(%)	60.0	45.0	48.0	51.0	54.0	57.0
県	受診率(%)	39.6	40.3	40.7	34.9	38.2	39.4
国	受診率(%)	37.2	37.9	38.0	33.7	36.4	-

資料：法定報告

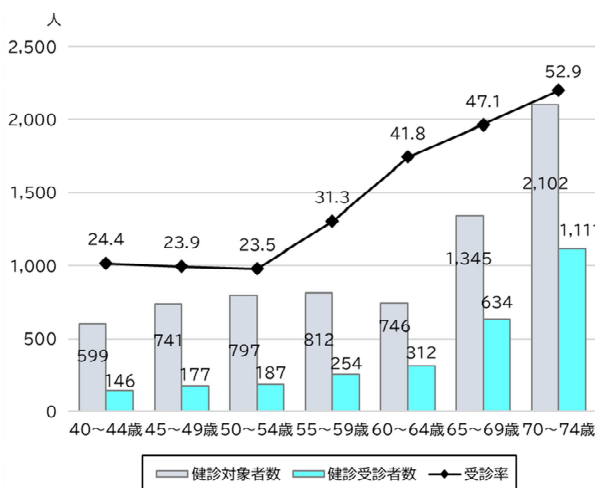
## 国・県との特定健診受診率の推移・比較



資料：法定報告

## 男女別・年齢階級別特定健康診査受診状況(令和4(2022)年度)

### 【男性】

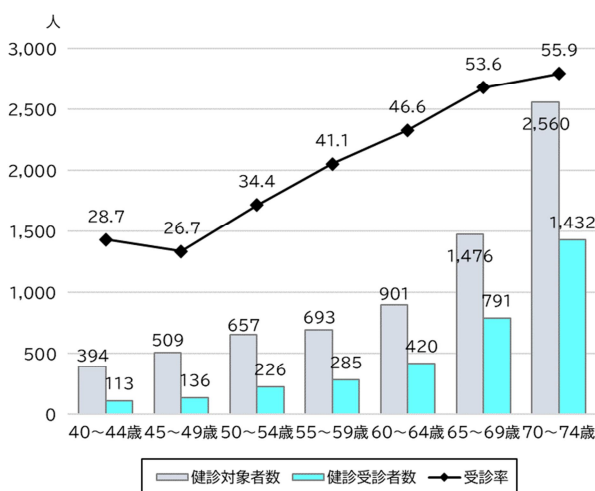


男性 単位：%

平成28年度		令和4年度		【差分】
年齢	受診率	年齢	受診率	
40~44歳	18.6	45~49歳	23.9	5.3
45~49歳	19.1	50~54歳	23.5	4.4
50~54歳	25.4	55~59歳	31.3	5.9
55~59歳	26.9	60~64歳	41.8	14.9
60~64歳	34.4	65~69歳	47.1	12.8
65~69歳	45.4	70~74歳	52.9	7.5

※令和4年度の「40~44歳」の受診率 24.4%

### 【女性】



女性 単位：%

平成28年度		令和4年度		【差分】
年齢	受診率	年齢	受診率	
40~44歳	26.1	45~49歳	26.7	0.7
45~49歳	25.8	50~54歳	34.4	8.6
50~54歳	32.2	55~59歳	41.1	8.9
55~59歳	38.3	60~64歳	46.6	8.3
60~64歳	43.5	65~69歳	53.6	10.1
65~69歳	54.4	70~74歳	55.9	1.6

※令和4年度の「40~44歳」の受診率 28.7%

資料：法定報告

## 【地区別特定健康診査受診率(令和4(2022)年度)】

本市では、日常生活圏域を6か所に分け、地域包括支援センターを運営していることから、特定健康診査についても同様に6地区で分析を行いました。

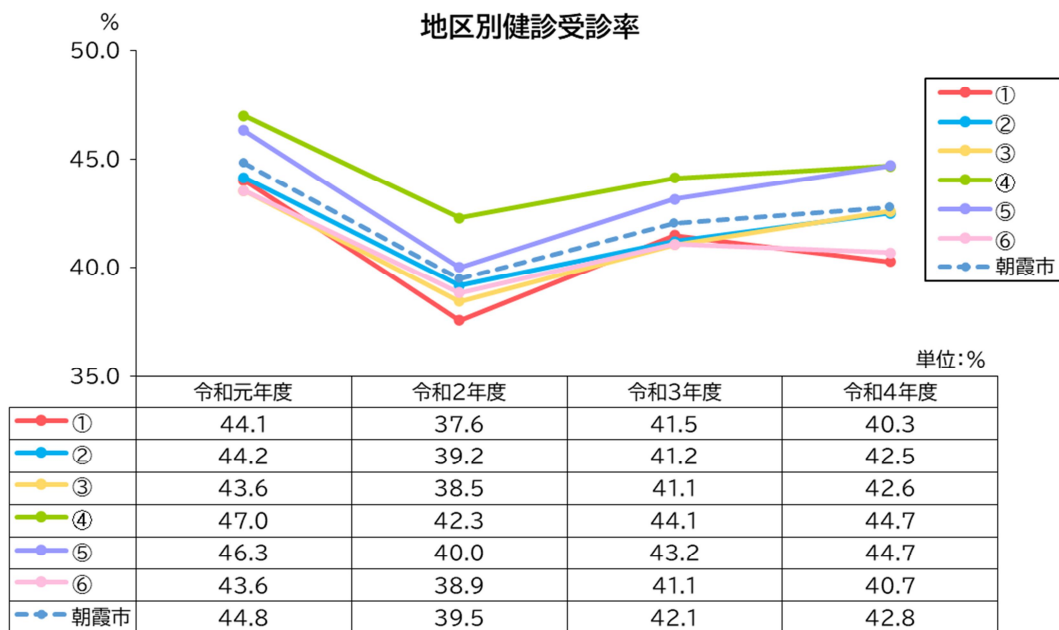
### 6地区の詳細

- ①大字上内間木・大字下内間木・宮戸・大字宮戸・朝志ヶ丘
- ②東弁財・西弁財・三原・泉水
- ③本町1、2丁目・溝沼1～5丁目・大字溝沼・膝折3～5丁目
- ④仲町・根岸台・大字根岸・大字台
- ⑤青葉台・栄町・幸町・膝折町1、2丁目・大字膝折・本町3丁目
- ⑥北原・西原・浜崎・大字浜崎・田島・大字田島・岡・大字岡・溝沼6、7丁目



④と⑤の地区の健診受診率は、令和元(2019)年度から令和4(2022)年度まで他の地区よりも高い状態が続いています。特定健康診査のアンケートの結果を地区別に見ると、健診受診率の高い地区は、継続して健診を受診する方の割合が高いことが分かりました。

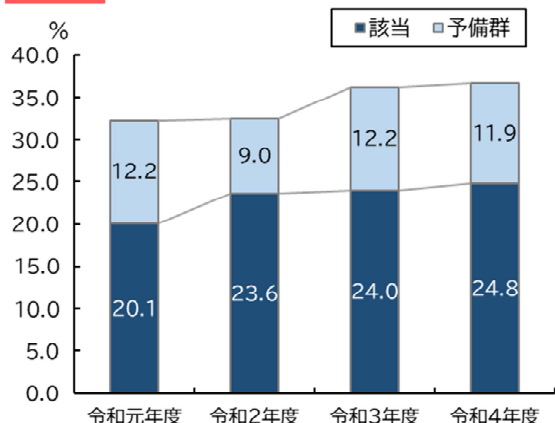
また、メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合は、健診の受診率が高く推移している地区は、低めで推移していました。令和4(2022)年度の健診受診率が低かった①と⑥の地区は、メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合は増加していました。



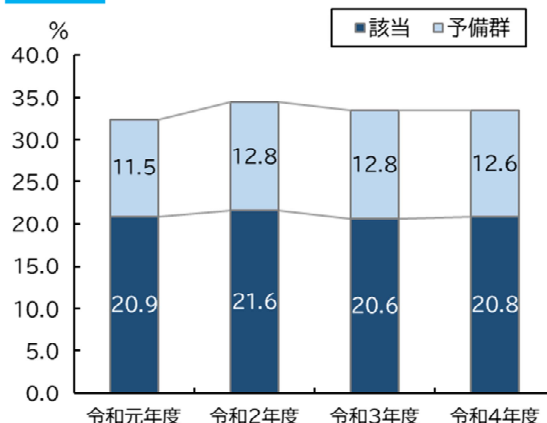
資料: KDB 地域の全体像の把握

メタボリックシンドローム該当者及び予備群割合

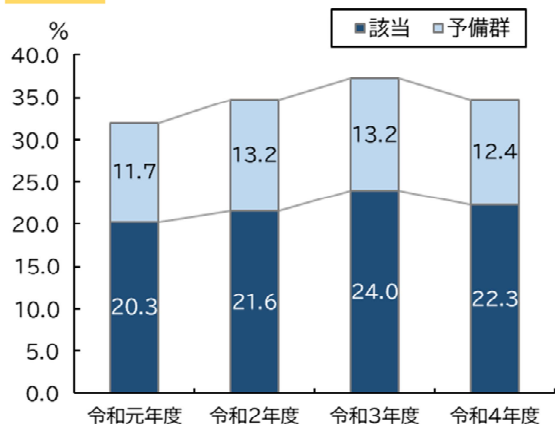
地区①



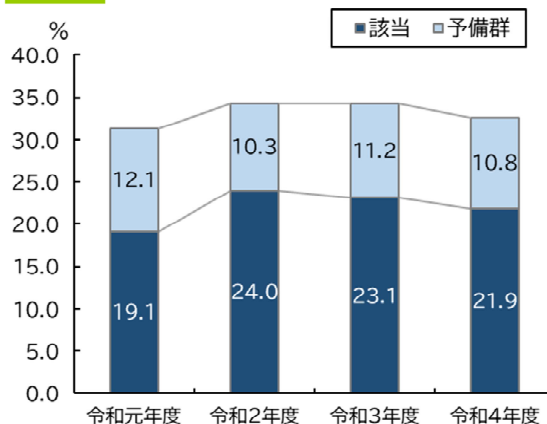
地区②



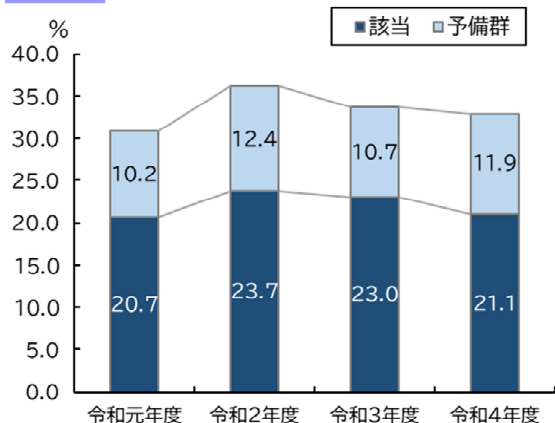
地区③



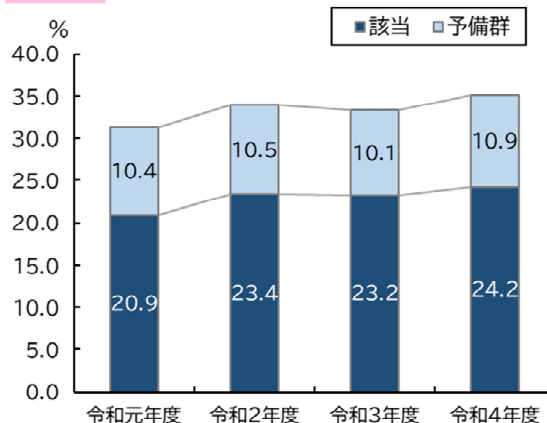
地区④



地区⑤



地区⑥



(2) 特定健康診査受診率向上対策の取組

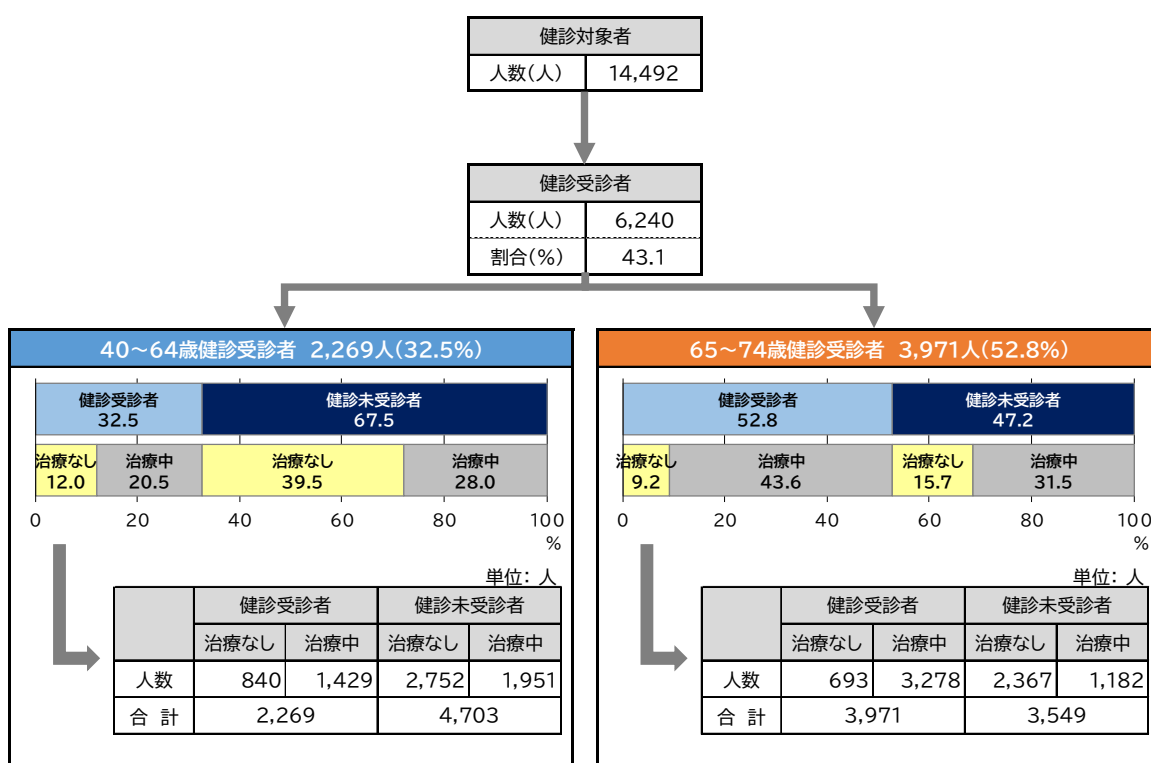
	第1期計画	第2期計画	第3期計画
	平成20年度～平成24年度の取組	平成25年度～平成29年度の取組	平成30年度～令和5年度の取組
環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健診実施期間の延長(7/1～11/30→7/1～12/31)</li> <li>○健診項目の充実(クレアチニン、尿酸、貧血検査、心電図検査を追加)</li> <li>○人間ドック検診補助金制度開始(平成24年度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○こくほの総合健診(休日)の実施(平成25年度開始)</li> <li>○医療費分析の充実(KDB)</li> <li>○特定健康診査結果分析</li> <li>○健診項目拡大(血小板数、尿潜血)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○検査項目追加(eGFR)</li> <li>○質問票の内容変更</li> <li>○人間ドック検診補助金の助成期間を通年に変更</li> </ul>
周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広報あさか、市のホームページに掲載</li> <li>○電光掲示板、ポスター掲示板</li> <li>○納税通知、保険証送付時にチラシを同封</li> <li>○けんこう大使「彩夏ちゃん」による受診率向上イベントへの参加(平成24年度:2回実施)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広報あさか、市のホームページ・Facebook・電光掲示板・ポスター掲示板、本庁舎ホール行政情報放映(市内循環バス、医療機関等)</li> <li>○朝霞地区4市合同特定健診等受診率向上キャンペーン</li> <li>○健康まつり、市民体育祭等市主催イベント会場でのPR</li> <li>○懸垂幕(市役所・産業文化センター)掲示</li> <li>○職員による受診勧奨ポロシャツの着用</li> <li>○テレビ埼玉・FMラジオCMの実施(共同事業)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広報あさか・市のホームページ・Facebook・電光掲示板・ポスター掲示板、本庁舎ホール行政情報放映(市内循環バス、医療機関等)</li> <li>○朝霞地区4市合同特定健診等受診率向上キャンペーン</li> <li>○けんこう大使に「ぼぼたん」を登録し、PR事業を実施</li> <li>○懸垂幕(市役所・産業文化センター)掲示</li> <li>○職員による受診勧奨ポロシャツの着用</li> <li>○FMラジオCMの実施(共同事業)</li> </ul>
他健診受診者等からの情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広報、受診券送付時のチラシ、受診勧奨はがきに受診結果提供のお願いを掲載(平成23年度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他の健診受診者情報提供事業(粗品導入:平成26年度)</li> <li>○他の健診(商工会、農協等)の健診日に健診結果提供を依頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他の健診受診者情報提供事業(粗品:継続)</li> <li>○他の健診(商工会、農協等)の健診日に健診結果提供を依頼</li> </ul>
未受診者への受診勧奨	<ul style="list-style-type: none"> <li>○受診勧奨はがきの送付(1回/年)</li> <li>○3年間未受診者へのアンケート調査(平成23年度実施)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○受診勧奨はがきの送付2回/年に変更(8月、10月)</li> <li>○小中学校保護者に対する受診勧奨チラシの配布</li> <li>○アンケート調査実施(3年間連続受診者、不定期受診者、3年間未受診者9,000人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○受診勧奨はがきの送付2回/年(9月、11月)</li> <li>○小中学校保護者に対する受診勧奨チラシの配布</li> <li>○アンケート調査実施(3年間連続受診者、不定期受診者、3年間未受診者4,500人)</li> </ul>



### (3) 年齢階級別・生活習慣病レセプト有無別の健診受診状況

特定健康診査の対象者を40歳から64歳までと前期高齢者の65歳から74歳までに分けて分析すると、40歳から64歳の健診受診率は32.5%と低く、健診・治療なしの対象者は39.5% (2,752人)でした。前期高齢者と比べて医療受診をしている割合が低いため、健康状態把握のためには、健診受診が必要です。職場等の健診を受けていることも想定されるため、健診データの提供を進めることで健康状態の把握や、保健事業へつなげることも可能になります。

#### 健診・医療受診の状況



資料：KDB 様式 5-5

※受診者数は、法定報告値とは異なる

#### (4) 特定保健指導実施率の推移

特定保健指導実施率は、平成 30(2018)年度以降、県内市町村平均を下回っており、目標実施率を達成するのは困難な状況です。

特定保健指導の実施体制は、平成 26(2014)年度から外部委託へ変更しており、委託後の実施率は徐々に伸び、平成 28(2016)年度は過去最高の実施率となりましたが、平成 29(2017)年度には 7.5%の減少に転じました。令和4(2022)年度では、平成 30(2018)年度より 0.2%上昇しています。男性は50～54歳、女性は45～49歳の実施率が低くなっています。

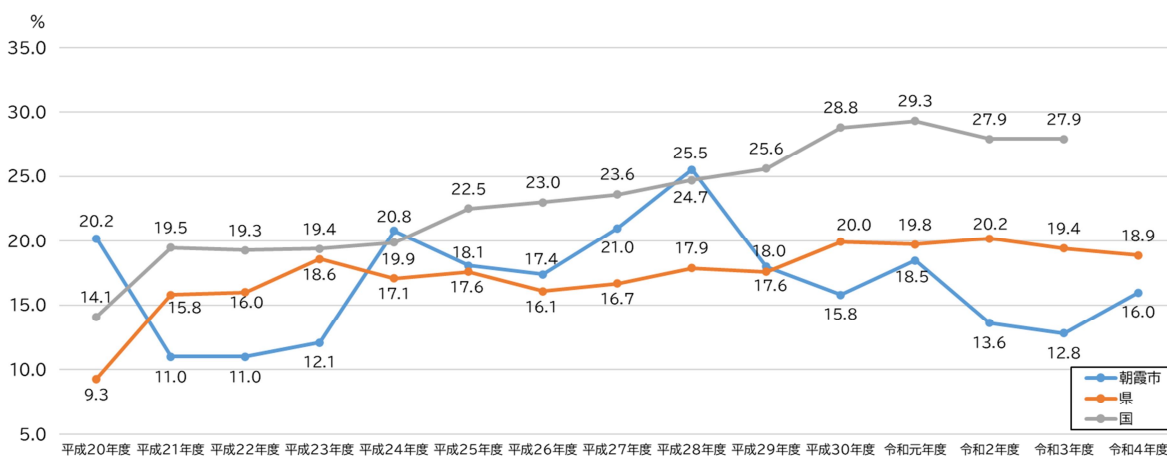
また、特定保健指導の実施率向上対策として、令和 3(2021)年度から健診当日において、特定保健指導を同時に実施する取り組みを開始しました。

特定保健指導の実施人数・実施率の推移

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
朝霞市	対象者数(人)	734	713	715	749	820	795
	積極的支援実施者数(人)	21	22	14	18	17	18
	動機付け支援実施者数(人)	111	91	117	84	88	109
	実施率(%)	18.0	15.8	18.3	13.6	12.8	16.0
	目標実施率(%)	60.0	25.0	32.0	39.0	46.0	53.0
県	実施率(%)	17.6	20.0	19.8	20.2	19.4	18.9
国	実施率(%)	25.6	28.8	29.3	27.9	27.9	-

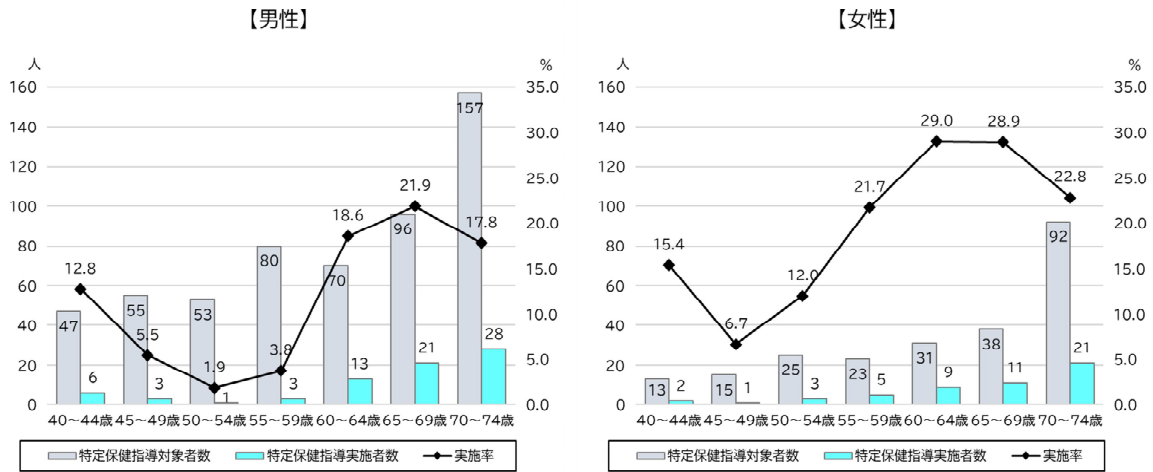
資料：法定報告

国・県との特定保健指導実施率の推移・比較



資料：法定報告

男女別・年齢階級別特定保健指導実施状況(令和4(2022)年度)



資料：法定報告

【特定保健指導による対象者の減少率】

特定保健指導の対象者の減少率と、特定保健指導を利用した方の対象者の減少率を比較すると、特定保健指導利用者の減少率は特定保健指導対象者の減少率より高く推移しています。

特定保健指導対象者の減少率

単位：%

性別	年齢区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	平均
男性	40～64歳	16.2	14.6	18.5	15.4	18.4	14.7	16.3
	65～74歳	22.9	12.9	22.8	10.8	16.5	16.3	17.1
女性	40～64歳	20.7	19.2	23.0	16.4	19.8	25.7	20.8
	65～74歳	29.0	27.1	18.0	13.5	21.0	25.2	22.3
合計		21.5	17.1	20.5	13.4	18.3	18.8	18.3

資料：法定報告

単位：%

性別	年齢区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	平均
男性	40～64歳	25.8	21.1	23.8	18.8	29.2	18.2	22.8
	65～74歳	27.2	16.4	29.2	15.3	23.1	28.2	23.2
女性	40～64歳	28.1	25.0	30.0	26.7	31.3	38.9	30.0
	65～74歳	34.6	33.3	25.0	17.5	45.0	36.4	32.0
合計		29.1	22.8	27.0	17.7	30.3	29.7	26.1

資料：法定報告

(5) 特定保健指導実施率向上対策の取組

	第1期計画	第2期計画	第3期計画
	平成20年度～平成24年度の取組	平成25年度～平成29年度の取組	平成30年度～令和5年度の取組
周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広報あさか、市のホームページ、受診券送付時のチラシ等に保健指導の記事を掲載</li> <li>○特定保健指導対象者に個別案内通知を行い、反応のない方に再通知を実施</li> <li>○再通知後に反応のない方に訪問を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広報あさか、市のホームページ、受診券送付時のチラシ等に保健指導の記事を掲載</li> <li>○特定保健指導案内通知を個人の健診データの経年変化や、健康状態の評価などを追加した内容に変更して実施</li> <li>○案内通知を3回送付(対象:返信のない方)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広報あさか、市のホームページ、受診券送付時のチラシ等に保健指導の記事を掲載</li> <li>○特定保健指導の案内であることが分かりやすい内容にした通知に変更して実施</li> <li>○案内通知を3回送付(対象:返信のない方)</li> </ul>
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特定保健指導の申し込み方法をはがきに変更</li> <li>○特定保健指導会場を参加者の少ない地域(三原・根岸台)で開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業文化センター</li> <li>・東朝霞公民館</li> </ul> </li> <li>○積極的支援: 指導期間中に血液検査を実施</li> <li>○積極的支援: 指導終了後にも継続できるよう健康増進センター(わくわくどーむ)を活用したプログラムに変更(平成22年度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○業務委託開始(平成26年度)</li> <li>○土曜日・日曜日・祝日の開催</li> <li>○市役所、産業文化センターでの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「こくほの総合健診」の場で指導対象者の特定保健指導を実施</li> <li>○土曜日・日曜日・祝日の開催</li> <li>○市役所、産業文化センターでの開催</li> </ul>
医療機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○受診者へ特定保健指導PRチラシの配布・説明を依頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○医師会への報告会の実施(4市合同)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○医療機関からの特定保健指導の案内チラシの配布</li> <li>○医師会への報告会の実施(4市合同)</li> </ul>
希望しない対象者への勧奨	<ul style="list-style-type: none"> <li>○案内再通知の中に腎臓の機能がわかる個人の結果(eGFR)を同封</li> <li>○案内通知に個人の経年の結果票を同封</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○利用希望のない方に対する電話による利用勧奨の実施</li> <li>○案内通知に個人の経年の結果票を同封</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○利用希望のない方に対する電話による利用勧奨の実施</li> </ul>

## (6) 特定健康診査有所見率

メタボリックシンドロームの該当者割合は、令和元(2019)年度より20%を超え、令和4(2022)年度は22.4%になっています。予備群の該当割合は横ばいで、令和4(2022)年度は12.0%です。

メタボリックシンドロームの該当項目として、腹囲に該当する方の割合は増加している一方で、肥満(BMI)に該当する方の割合は減少しています。リスクの重なりを見ると、単独のリスク者は横ばいで推移していますが、2つ以上該当する方の割合は微増しています。

令和元(2019)年度と比べて令和4(2022)年度の特定健康診査の有所見率は、40歳から64歳までの男性と65歳から74歳の女性の血圧による有所見率が上昇しています。血糖値とHbA1cの有所見率は低下していました。女性はLDLコレステロールの有所見率は半数以上が該当していますが、令和4(2022)年度は割合が下がり、40歳から64歳までの男性はLDLコレステロールの有所見率が高くなっていました。腎機能は加齢とともに低下しますが、65歳から74歳までの男性はクレアチニンの有所見率が令和4(2022)年度は高くなっていました。

特定健康診査の質問票の状況を見ると、前期計画と同様に、喫煙や朝食の欠食、就寝前に夕食を食べる習慣がある人の割合で高い状態が続いています。毎日飲酒と回答した方の割合は低下していますが、国や県、同規模市町村と比べて高い割合です。

### メタボリックシンドローム該当者及び予備群の推移

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
評価対象者数(人)		7,379	7,121	6,801	6,974	6,156	6,429	6,226
メタボリックシンドローム該当者	該当者数(人)	1,391	1,339	1,341	1,453	1,421	1,477	1,393
	該当者割合(%)	18.9	18.8	19.7	20.8	23.1	23.0	22.4
	減少率(%)	22.6	23.7	20.9	21.7	18.9	20.3	20.6
メタボリックシンドローム予備群	該当者数(人)	872	825	798	791	727	759	746
	該当者割合(%)	11.8	11.6	11.7	11.3	11.8	11.8	12.0
	減少率(%)	20.6	20.7	19.3	21.2	14.9	22.1	17.8

資料：法定報告

メタボリックシンドロームのリスクの状態

単位:%

項目		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
						朝霞市	県	同規模市町村平均	国	
メタボ該当・予備群レベル	腹囲	総数	35.1	35.9	38.1	38.4	37.9	35.4	35.3	34.9
		男性	56.8	56.3	59.5	58.8	58.6	56.3	56.0	55.8
		女性	18.6	19.9	21.0	22.3	20.7	19.5	19.7	19.1
	BMI	総数	4.6	4.2	4.5	3.8	3.4	4.8	4.7	4.7
		男性	1.4	0.9	1.1	0.9	0.8	1.5	1.6	1.6
		女性	7.2	6.7	7.3	6.2	5.5	7.3	7.0	7.0
	血糖のみ		0.7	0.8	0.8	0.6	0.8	0.6	0.6	0.6
	血圧のみ		8.2	7.8	8.1	8.5	8.1	8.4	8.0	7.8
	脂質のみ		2.9	2.7	2.9	2.6	3.0	2.6	2.7	2.6
	血糖・血圧		3.1	3.4	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0
	血糖・脂質		0.9	1.1	1.2	1.2	1.2	1.0	1.0	1.0
	血圧・脂質		9.4	9.2	10.3	10.8	10.4	9.9	10.0	9.8
血糖・血圧・脂質		6.3	7.2	8.0	7.6	7.3	6.6	6.7	6.8	

資料: KDB 地域の全体像の把握

男女別健診有所見割合の推移

		BMI		腹囲		中性脂肪		ALT(GPT)		HDL コレステロール		尿酸	
		25以上		85以上		150以上		31以上		40未満		7.0以上	
		人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
40~64歳	令和元年度	364	33.9	572	53.2	355	33.0	296	27.5	86	8.0	219	20.4
	令和4年度	411	<b>38.1</b>	608	<b>56.3</b>	329	30.5	307	<b>28.4</b>	74	6.9	204	18.9
65~74歳	令和元年度	621	31.2	1,155	58.0	565	28.3	342	17.2	130	6.5	276	13.8
	令和4年度	555	31.8	1,048	<b>60.0</b>	466	26.7	317	<b>18.1</b>	99	5.7	277	15.8
県		54,088	33.8	90,245	56.3	43,001	26.8	31,966	20.0	11,525	7.2	22,928	14.3
国		33.9		55.8		28.1		20.7		7.3		13.0	

		血糖		HbA1c		収縮期血圧		拡張期血圧		LDL コレステロール		クレアチニン	
		100以上		5.6以上		130以上		85以上		120以上		1.3以上	
		人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
40~64歳	令和元年度	392	36.5	470	43.7	428	39.8	346	32.2	521	48.5	11	1.0
	令和4年度	375	34.7	461	42.7	440	<b>40.7</b>	360	<b>33.3</b>	562	<b>52.0</b>	13	1.2
65~74歳	令和元年度	1,092	54.8	1,295	65.0	1,141	57.3	532	26.7	899	45.1	56	2.8
	令和4年度	905	<b>51.8</b>	1,075	<b>61.5</b>	976	55.8	468	26.8	762	43.6	71	<b>4.1</b>
県		48,203	30.1	97,768	61.0	84,718	52.9	43,967	27.4	74,905	46.8	4,327	2.7
国		34.9		59.1		50.8		25.7		44.8		2.7	

資料: KDB 様式 5-2

女性		BMI		腹囲		中性脂肪		ALT(GPT)		HDL コレステロール		尿酸	
		25以上		85以上		150以上		31以上		40未満		7.0以上	
		人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
40～ 64歳	令和元年度	259	19.9	226	17.3	184	14.1	118	9.0	11	0.8	35	2.7
	令和4年度	239	20.1	217	18.3	151	12.7	141	11.9	13	1.1	30	2.5
65～ 74歳	令和元年度	583	22.3	555	21.2	434	16.6	250	9.5	25	1.0	79	3.0
	令和4年度	464	20.9	489	22.0	361	16.2	231	10.4	22	1.0	45	2.0
県		46,030	21.9	40,955	19.5	31,546	15.0	18,521	8.8	2,578	1.2	4,225	2.0
国		21.5		19.1		15.9		9.0		1.3		1.8	

女性		血糖		HbA1c		収縮期血圧		拡張期血圧		LDL コレステロール		クレアチニン	
		100以上		5.6以上		130以上		85以上		120以上		1.3以上	
		人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
40～ 64歳	令和元年度	275	21.1	578	44.3	393	30.1	224	17.2	737	56.5	1	0.1
	令和4年度	238	20.0	497	41.8	363	30.5	200	16.8	678	57.0	1	0.1
65～ 74歳	令和元年度	978	37.4	1,579	60.3	1,406	53.7	464	17.7	1,562	59.7	8	0.3
	令和4年度	725	32.6	1,286	57.8	1,218	54.8	419	18.8	1,202	54.1	6	0.3
県		41,072	19.5	126,232	60.1	103,680	49.3	39,364	18.7	116,911	55.6	574	0.3
国		22.2		57.6		46.3		16.9		54.1		0.3	

資料: KDB 様式 5-2

### 質問票(生活習慣)の状況

単位:%

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
					朝霞市	県	同規模 市町村平均	国	
喫煙	14.9	14.8	13.3	13.8	14.0	12.3	12.7	12.7	
週3回以上朝食を抜く	10.3	10.8	10.9	11.9	13.1	9.2	9.9	9.7	
週3回以上就寝前夕食	19.0	19.5	17.7	17.8	18.4	14.2	15.1	14.7	
食べる速度が速い	25.9	25.4	25.3	25.0	25.2	26.0	24.6	26.4	
20歳時体重から10kg以上増加	33.5	34.3	34.9	35.6	35.2	34.9	35.1	34.6	
1回30分以上運動習慣なし	53.4	54.9	55.8	56.9	55.8	58.6	56.4	59.3	
1日1時間以上運動なし	44.0	44.8	45.2	45.4	45.4	48.5	47.0	47.5	
睡眠不足	24.7	25.4	22.9	22.8	23.6	24.4	25.5	24.9	
毎日飲酒	27.4	26.0	26.5	25.8	25.5	23.9	24.2	24.6	
時々飲酒	24.1	25.8	24.2	24.4	24.6	21.7	22.2	22.3	
1 日 飲 酒 量	1合未満	68.6	69.4	70.6	71.1	69.6	67.0	70.0	65.6
	1～2合	20.4	20.1	19.9	19.6	19.6	22.4	19.7	23.1
	2～3合	8.6	8.3	7.5	7.6	8.3	8.4	8.2	8.8
	3合以上	2.4	2.3	2.0	1.7	2.5	2.2	2.1	2.5

資料: KDB 地域の全体像の把握

## 4 介護に関する状況

本市の介護認定率はわずかに上昇しており、受給区分ごとに有病状況を見ると、いずれの区分も筋骨格系疾患が最も高く、脳卒中は高齢者よりも若い世代の方が高い割合を占めています。

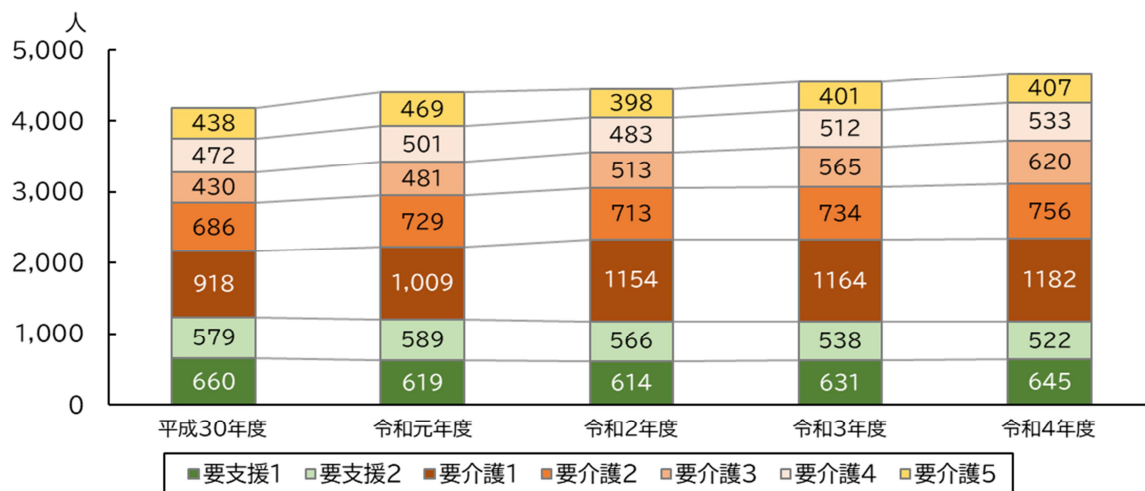
1件当たりの介護給付費は、居宅サービスも施設サービスも上昇していますが、国や県を下回っています。1人当たり給付費は令和3(2021)年度がピークになっており、令和4(2022)年度は減少しています。

### 一号被保険者の介護認定率の推移

割合		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
介護保険1号認定者率(%)		15.6	16.2	16.2	16.3	16.6
介護保険1号認定者 介護度別総件数(件)	要支援1.2	1,239	1,208	1,180	1,169	1,167
	要介護1.2	1,604	1,738	1,867	1,898	1,938
	要介護3以上	1,340	1,451	1,394	1,478	1,560

資料：長寿はつらつ課

### 一号被保険者介護度別認定者人数の推移



資料：長寿はつらつ課



介護認定者の有病状況(令和4年度)

要介護認定状況	受給者区分		2号				1号				合計	
	年齢		40～64歳		65～74歳		75歳以上		小計			
	被保険者数(人)		50,490		13,296		14,237		27,533		78,023	
	認定者数(人)		178		550		4,450		5,000		5,178	
	認定率(%)		0.35		4.1		31.3		31.3		6.6	
	新規認定者数(人)		39		129		699		828		867	
	介護度別		人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	合計	
	要支援1・2		36	20.2	143	26.0	1,138	25.6	1,281	25.6	1,317	25.4
	要介護1・2		73	41.0	229	41.6	1,777	39.9	2,006	40.1	2,079	40.2
	要介護3～5		69	38.8	178	32.4	1,535	34.5	1,713	34.3	1,782	34.4

要介護突合状況	受給者区分		2号				1号				合計								
	年齢		40～64歳		65～74歳		75歳以上		小計										
	介護全件数(件)		178		550		4,450		5,000		5,178								
	再)国保・後期(件)		77		417		4,158		4,575		4,652								
	(レセプトの診断名より重複して計上)	血管疾患	疾患	順位	疾病	件数(人)	割合(%)	疾病	件数(人)	割合(%)	疾病	件数(人)	割合(%)	疾病	件数(人)	割合(%)			
					脳卒中	48	62.3	脳卒中	181	43.4	脳卒中	1,841	44.3	脳卒中	2,022	44.2	脳卒中	2,070	44.5
			循環器疾患	2	腎不全	20	26.0	虚血性心疾患	119	28.5	虚血性心疾患	1,624	39.1	虚血性心疾患	1,743	38.1	虚血性心疾患	1,763	37.9
					虚血性心疾患	8	10.4	腎不全	67	16.1	腎不全	709	17.1	腎不全	776	17.0	腎不全	784	16.9
			合併症	4	糖尿病合併症	11	14.3	糖尿病合併症	64	15.3	糖尿病合併症	529	12.7	糖尿病合併症	593	13.0	糖尿病合併症	604	13.0
					基礎疾患(高血圧・糖尿病・脂質異常症)	67	87.0	基礎疾患	369	88.5	基礎疾患	3,905	93.9	基礎疾患	4,274	93.4	基礎疾患	4,341	93.3
血管疾患合計			70	90.9	血管疾患合計	378	90.6	血管疾患合計	3,963	95.3	血管疾患合計	4,341	94.9	血管疾患合計	4,411	94.8			
認知症			認知症	6	7.8	認知症	90	21.6	認知症	1,746	42.0	認知症	1,836	40.1	認知症	1,842	40.4		
				筋・骨格疾患	52	67.5	筋骨格系	353	84.7	筋骨格系	3,882	93.4	筋骨格系	4,235	92.6	筋骨格系	4,287	92.2	

※新規認定者数は、KDBの要介護突合状況の「開始年月日」を参照し、年度累計を計上  
資料：KDB 要介護(支援)者認定状況、要介護(支援)者突合状況

介護給付費の比較

単位:円

項目	朝霞市		県	国
	平成30年度	令和4年度	令和4年度	令和4年度
1件当たり給付費(月)	55,724	54,921	57,940	59,662
居宅サービス	37,344	38,090	39,562	41,272
施設サービス	286,494	299,204	292,776	296,364

資料：KDB 地域の全体像の把握

介護給付費の推移

単位:円

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
一人当たり給付費/総給付費	229,128	247,814	262,957	280,653	264,225
1件当たり給付費(全体)	55,724	55,929	57,014	55,595	54,921
居宅サービス	37,344	37,641	37,901	38,138	38,090
施設サービス	286,494	292,627	299,911	299,515	299,204

資料：KDB 地域の全体像の把握

## 5 分析結果まとめ

分析	各種データ等の分析結果
標準化死亡比・平均寿命・平均自立期間	<p>総死亡の SMR は国と比して高くないが、女性の肝疾患、心疾患、腎不全による死亡は、国と比べて高く、県と比較しても、やや高い水準である。</p> <p>平均寿命は全国と同レベルで、平均自立期間は国・県と比べて、やや高い。</p>
医療費の分析	<p>入院・入院外の疾病大分類別被保険者 1 人当たり医療費の合計では、新生物(腫瘍)が最も高く、次いで循環器系の疾患、腎尿路生殖器系の疾患、内分泌、栄養及び代謝疾患となっている。</p> <p>虚血性心疾患の医療費を見ると、80 万円以上のレセプト件数が減り、6 か月以上の入院レセプト件数は増加している。</p> <p>循環器系の疾患の重症化予防の取り組みが必要である。</p>
特定健康診査・特定保健指導等の健診データの分析  レセプト・健診データ等を組み合わせた分析	<p>特定健康診査受診率及び特定保健指導実施率の目標値は、到達していない。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮する必要がある。特定健康診査の受診率向上のためには、通院中の未受診者及び若い世代への受診を促すことが必要である。</p> <p>特定健康診査の検査項目では、40 歳から 64 歳までの男性と 65 歳から 74 歳までの女性における血圧の有所見率が上昇している。また、40 歳から 64 歳までの男性は LDL コレステロールの有所見率が高くなる一方で、女性は低下しているものの半数以上が LDL コレステロールの所見有りとリスクが高い状態である。</p> <p>特定健康診査の問診情報から生活習慣を見ると、食習慣、喫煙の項目に課題がある者の割合は県内市町村平均より高い。生活習慣病の発症の背景として、日々の生活習慣の改善に向けた支援が必要である。</p>
介護費関係の分析	<p>介護認定率はわずかに上昇しているが、介護給付費は、国や県と比べると低い。</p> <p>介護認定者の有病状況は、2 号認定者では脳卒中の割合が高く、1 号認定者では年齢が上がるにつれて虚血性心疾患の割合が高くなっている。生活習慣病の重症化によって介護に至っている実態が分かる。75 歳以上では筋骨格疾患が 90.5% を占めるため、介護予防に向けた保健事業の一体的実施により必要な保健事業につなげていくことが必要である。</p>
糖尿病と人工透析の状況	<p>人工透析患者数は 120 人前後で推移しており、疾患別人工透析患者数の割合では、高血圧症や糖尿病が上位である。生活習慣病の重症化予防の取り組みが必要である。</p>